

派遣留学生帰国報告書

* 復学後の情報を入力してください

記入日	2015年5月12日		
所属学部	文学部		
所属学科・専攻	国際言語文化学科	学年	3年

1. 留学先について

留学先大学名	University of Cincinnati		
留学先所属学部等	Arts and Science, Communication		
留学期間	出発日 8月11日	入学日 8月25日	修了日 5月2日 帰国日 5月11日
住居	<input type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート等 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input checked="" type="checkbox"/> その他 (ハウスシェア)		
	通学時間	10分	<input type="checkbox"/> 大学の紹介・あっせん
	通学方法	徒歩またはシャトルバス	
	部屋のタイプ	<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> ()人部屋 <input type="checkbox"/> 共同スペース有 () <input type="checkbox"/> 無	
食事	自炊 80%	学食 %	外食 20% その他 % () *%で記入してください
保険	海外旅行保険(名称)	OSSMA	
	大学指定の保険(名称)	University of Cincinnati health insurance	<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入
	その他		
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)		
	羽田	⇄	ロサンゼルス(飛行機) ⇄ シンシナティ(飛行機)
	シンシナティ(飛行機)	⇄	デトロイト(飛行機) ⇄ 成田

2. 留学にかかった費用について

総費用	1,370,000	円	*おおよそでかまいません。	
出処				
自費	<input checked="" type="checkbox"/> 貯金 300,000	円	<input type="checkbox"/> アルバイト	円 <input type="checkbox"/> その他 円
援助	<input checked="" type="checkbox"/> 両親 800,000	円	<input type="checkbox"/> 家族・親戚	円 <input type="checkbox"/> その他 円
奨学金	<input type="checkbox"/> JASSO	円	<input type="checkbox"/> その他名称()	円
その他	<input checked="" type="checkbox"/> 千葉大学助成金 270,000	円	<input type="checkbox"/> その他()	円

2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input checked="" type="checkbox"/> 現金 100,000	円	<input type="checkbox"/> クレジットカード 300	<input type="checkbox"/> その他()
留学中	<input checked="" type="checkbox"/> 海外送金	<input type="checkbox"/> キャッシング	<input type="checkbox"/> その他()	

2-2. 各費用の支払い方法 ex.)全額、クレジットカードで。

大学に払った費用	\$2,128
住居にかかった費用	\$5,800
その他	

2-3. 内訳 * 外貨と日本円に換算した金額を両方記入してください

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)	\$		210,000	円
海外旅行保険	\$		110,000	円
OSSMA	\$			円
査証・在留許可証	\$		20,000	円
住居	\$	\$58,000		円
食費	\$	\$600		円
通学に要する交通費	\$	0		円
教科書、教材費	\$	\$600		円
その他大学に支払った経費	\$	2,128		円
光熱費	\$			円
その他 ()	\$			円
その他 ()	\$			円
その他 ()	\$			円

3. 学業面 *必ず留学先の成績証明書と単位の互換認定が反映された千葉大学成績証明書を提出すること。

履修科目名 * 全て。足りない場合には別紙に記入してください。	種類 ex. 正規、聴講	単位数	単位認定の有無	
1 Interpersonal Communication	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
2 Intercultural Communication	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
3 Improving pronunciation for ESL	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
4 US culture and communication	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
5 Basic Spanish	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
6 Academic Writing	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
7 Business Communication	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
8 Small Group Problem Solution	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
9 Public Speaking	正規	3	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
10			<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

* 登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合など具体的に説明してください。

基本的には千葉大学の履修登録システムと同じようなもので、気になる授業、取りたい授業をチェックしてオンラインで登録するというものです。ただ、交換留学生(インターナショナルスチューデント)は履修登録ができるようになるのが少し遅く、取りたい授業が満席になっていることも少なくありません。その場合は履修登録カードというような小さなカードを持って教授にサインをしてもらい、ONE STOPという所に直接提出しなければならないので多少そういうめんどうになることは交換留学生である限り覚悟しておいた方がいいと思います。また、教授とは授業の一回目からしっかりとコンタクトをとって自分の中にある不安、気になる点を話しておく方がいいと思います。そうすることで教授にしっかりと認識してもらえるのみならず、単純に距離を縮めることができて後々授業が楽になります。

3-2. 授業内容、方法に関して

一年生向けの授業は割りと大人数だったようなイメージがあります。成績の決め方は授業にもよりけりですが、定期的にあるテストやペーパーの合計点で最終的には決まるというのがオーソドックスなものだと考えてもらって構わないと思います。期末試験いっぱつとかいうのはあまりなかったのが基本的には気を抜けません。特に授業によっては教科書を読むという至って当たり前のタスクが授業の肝になると言っても過言で無かったりします。授業が教科書についての質問から始まり、何もなければ教科書に載ってない具体事例などを詳しく見ていき、授業が終わるとい時は最初から最後まで論点がつかめない80分間になってしまったりします。日々の勉強を重視するスタイルだからこそ教授も生徒も授業に対して真摯に取り組むのでしょう。

3-3. 語学力について

シンシナティ大学は日本からの交換留学協定校が千葉大学と名古屋大学しか今年度はなく、合計4人しかいなかったため日本人同士で固まりすぎるということはありませんでした。日本語を使う機会があればあるほど英語の伸びは減るとはよく言うものですが、最初の1~2ヶ月が非常に大切になります。留学をすると誰もが経験する文を頭で構成して口に出すまでの葛藤をどれだけこの時期に経験して苦しむかで随分と留学後半の英語力の伸びが変わってきます。TOEFLの実際の点数の伸びとしては65点から89点と24点伸ばすことができました。特別TOEFLのためだけに勉強したわけではありませんが、実際に暮らして英語を使うことでリスニング、スピーキング、そしてライティングのスコアが伸びたように思います。

3-4. 図書館など学内施設について

図書館が24時間テスト期間などに関わらず開いているのは非常に便利でした。また座席数や、空間づくりも非常に考えられていてグループで勉強する場所は静かに1人で勉強する場所がはっきりと分かれています。居心地もよい空間でした。またジムの充実も素晴らしいものでした。大学内にある施設は基本的にすべてが無料だったため、ジムのほとんどの施設も無料で使うことができる上にランニングマシン、プール、クライミングスペース等など、飽きることなく運動を継続することができました。

3-5. その他

4. 生活面 * 気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。書ききれない場合には別紙等に続けてください。

4-1. 住居について

寮の締め切りが応募しようと思った時には過ぎていたため、大学近辺にある家に住まなければなりませんでした。家を探したりすることは多少面倒でしたが、結果としては後悔していません。2セメスター通して最終的に2つの家に住むことになりました。1つ目の家は大学のウェブページに載っていた家で、かなり大きめの最大15人くらいまで住めるものでした。そこではヨーロッパの国を中心に多くの友人をそこで得ることができました。同じ家に大人数で住むということで共同スペースの掃除など様々な問題もありましたが、常に話題に事欠かない家でした。春セメスターに2つ目の家に移り、そこでは5人で住みました。大学付属の寮ではないので、徒歩かシャトルバスで通学だったのですが、2つ目の家は断然1つ目のものより近かったため徒歩で学校に行くことができよかったです。時間に縛られることが多いシャトルバス通学だったのと、夜遅くまで図書館で勉強できることはかなり自分にとってはプラスに働きました。正直行く前に家の状況や量の事情などを大学から支給される資料などでは把握しきることは不可能です。できることならば千葉大学から派遣留学などの先輩との連絡を密に取って情報を得るほうがよっぽど良いように思いました。僕の例でいえば、1つ目の家が徒歩15分と大学のウェブページでは言っていたところ、25分ほどかかるなど、現実とは違うなど、大家さんとの関係が築きづらいなど様々でした。

4-2. 食生活について

僕は学校で取れるミールプラン(三食食べ放題から回数制限のものまで様々)を値段の関係上取っていなかったため、基本的に自炊の生活だったのですが、最後はかなり自分の料理に飽きました。実家暮らしだったため、毎日クックパットを見て勢いだけで作るという日々を繰り返し、最終的にはうまくいく上に大量に作れるスパゲッティ、肉じゃがなどをひたすら食べていたような気がします。秋セメスターは自炊に慣れずイライラし、春セメスターは勉強に追われ時間がなく自炊をしたくないという、常に食事に悩まされていました。いい経験になったとは思いますが、買い物上手にもならなければ結局食費は上がりますし、来る前に経験を積んでおくことは大切だと思います。日本のものが売っている食料品店は少ないわけではないですが、場所によっては車がないと行けないなどの場合があるため、すごく貴重に感じました。アメリカンフード(ピザやチキンウィングなど)を簡単だからといって食べ続けていると本当に太ります。食生活を自分で管理することは留学生活を気持ちよく過ごす1つのカギになると思います。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

学内では無料のWi-Fiが通っていたため、特にインターネットに困ることはありませんでした。ですが、家の備え付けのWi-Fiは性能が悪く頻繁に動かないことがあり、頭を悩まされることもありました。携帯電話に関しては、日本人四人とクロアチア一人とファミリープランというものがあるT-mobileという携帯会社と契約を結び月々\$26ほどでスマートフォンを使っていました。これは月々に契約を更新していくものだったため、自分の帰国日に合わせて契約解除をすることができてよかったです。また、アメリカの学生は日本で言うところのLINEのような連絡用アプリを使うというよりも、携帯番号を使った連絡が多かったため、携帯番号を手にいれておくことは重要だと思います。

4-4. 服装について

僕自身としては日本にいる時と変わらないような格好で登校していましたが、アメリカ人学生はどちらかと言うとラフな格好が多かったように思います。大学のロゴマークが入っているTシャツやスウェットパンツを着て、夜遊びに行く際にドレスアップをするというケースが多かったように思います。

4-5. 健康管理について

勉強の時間と友達と関わる時間をしっかりと確保することは留学を充実したものにするために非常に大切ですが、睡眠時間をしっかりと確保することも体調を崩さないようにし、充実した生活を送るために大切な要素になります。友達と夜外に行き、寝るのが遅くなってしまうことも多々ありますが、その中でも規則正しい生活を送ろうとする意識付けが体調を崩さないうえで大切だと思います。またシンシナティは季節によって気温の上がり下がりが大きいので、そこにも気を使う必要があります。冬は経験したことがないほどの低い気温になることもあるので注意しなければなりません。

4-6. 保険、OSSMAの利用 * 利用実績等をご記入ください

特に利用する機会はありませんでした。

4-7. 課外活動について

大学外の活動ではありませんが、TED talkのボランティアを行ったことは印象に残っています。Facebookの呼びかけを受けてその存在を知り、そこからスポンサーの獲得、スピーカーの募集など行いました。リーダーメンバーが強いリーダーシップを発揮し、当日までの流れも非常によく、その会は大成功で終わりました。そこでマーケティング技術や集団を使った企画運営方法などをリーダーメンバーから多く学べたことは自分のこれからの人生に影響を及ぼすと思います。基本的に課外活動は自分で見つけなければ参加することができないため積極性が問われていると思います。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

パイブルスタディなどは学外のコミュニティを作るのに良い機会だと思いました。個人的には一度しか利用する機会はありませんでしたが、新しい文化に触れるという点で利用できるかと思います。

4-9. 日本から持参してよかったもの

浴衣など伝統的な日本のものはウケが良かったように思います。日本のお土産としてジブリのキーホルダーなどは小さくかわいいので喜んでもらうことができました。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

日本を出るときに「必要になるかも知れない」と思うものの大半は必要のないものでした。たとえばこの服をもしかしたら着るかもしれない、と思っても基本的には着ません。むしろ、何回かしか使わないものをキャリーバックのスペースを使って持っていきよりは現地で調達するほうが価値があるように思います。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

身体的な距離の近さに驚きました。軽い挨拶をするときでも基本的に日本よりも距離が近く、親近感のあるスペースまで簡単に入り込めます。まして久しぶりに会う友達などはハグをするか肩をたたくくらいの距離まで一気に近くなります。それは自分にとってはかなり心地のいいものであって、日本に帰ってからかなりの違和感を感じるものになりました。それと、日本人は時間に厳しい、アメリカ人はルーズであるなんていうステレオタイプがありますが、それは人によって異なります。日本でも同じですよ。ただ、あちらでは時間に遅れたとしてもしっかりと目を見て謝り、それですべてチャラ、という風な考え方はあるかもしれません。それはある種の文化の違いであって困惑させられるものがありました。また、先輩後輩という概念は特別な場面でない限りあまり出てこないものなので、それも考えなければなりません。先輩と後輩で態度を変えなくてはならないということはありませんが、日本で成り立つ暗黙の秩序のようなものも存在しないため、本当の人間性が試される文化だったなと思います。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行 * 複数回出かけた方はすべての日程、行き先、費用等をご記入ください。

シカゴ8月下旬と5月上旬
ボストン10月下旬
ニューヨーク冬休み
ニューオーリンズ冬休み
カリフォルニア春休み
グランドキャニオン春休み

その他

5. 報告

5-2. 留学先大学について

シンシナティ大学はオハイオ州にあるコロンバス大学に次ぐ第二の規模を誇る総合大学です。学内にはコミュニティスペース、カフェテリア、ジムなど、多種多様な施設が整っており、とても居心地のいい大学でした。カレッジスポーツの代表格であるアメリカンフットボールや、バスケットボールも盛んであり、週末には多くの学生が近辺にあるスタジアムまで駆けつけ、Go Bearcat!をかけ声に盛り上がりを見せます。

5-3. 留学中の様子

授業があるときの必要とされる勉強時間は日本のそれとは比較にならないものでした。同じ授業が週に2・3回あるため、1週間で進む量が日本の授業の倍以上でした。それに伴い、教科書を読み込まなければならない分量も多く平日は放課後の多くの時間を自宅なり図書館なりで勉強する毎日でした。予習などはUp to youというスタイルでしたが、教科書の内容は皆が知っている基礎知識として扱われるため、予習を怠ると危機感が薄れるとともに理解度が格段に下がるというものでした。第2言語話者として留学をしているため教授が多少気を使ってくれる場合もありますが、それは情けであり、むしろ教授に自分はしっかりとやっているから意見を言わせてほしいというくらいでないとい授業に入り込めません。ただ、求められるものが大きい分、しっかりとした充実感、メリハリなどはこれまでにないようなものでした。とはいえ、常に勉強しているわけではなく、それぞれ趣味に応じたクラブ活動に尽力することもできますし、もちろん友達と出かけることもできます。すべてはSelf managementという所に集約されるので、勉学を何よりの優先にし、夜に時間を作れるように心がけていました。

5-4. 留学希望者へのアドバイス

留学をするにあたって一番明確にしておくべきことは、留学という経験を通して、また大学生という時間を利用して自分がどのような人になりたいのかということだと思います。今は派遣留学以外にも、その名の通り「留まって学ぶ」こと自体は容易なものになってきています。自分で休学して外に行ってみるなど、それこそ旅行でも留まって学ぶだけであれば可能だと思います。しかし、留学ということ自体が目標になってしまうと、実際に留学が始まった後にどこに向かって努力をしているのかが不明確になったり、やるせない虚無感に襲われてしまったりと様々なネガティブなことが起こります。目標自体は大義名分でも構いません。自分の中にある小さな灯を見つけてそれを最大化できるように場所、人間関係、使用言語等を心機一転させ、限られた期間の中で自分の目標に向かって前進できる留学にしてほしいと思います。

5-5. 留学を終えて * 派遣留学プログラムについて、今後の目標、進路、自信がついた部分、不安に思うことなどなんでも。

10か月に渡る交換留学生生活を終え、僕が得ることができたものは①海外で1人で暮らすことの自信②全世界に渡るコミュニティ③将来への知見だと思います。

前提として英語力の成長を話させていただきたいと思います。留学前は話すための基礎部分としていかにネイティブスピーカーらしく話すか、ということに終始していたため留学前はそこまで話せるわけではありませんでした。しかし、多くの時間を英語を使って暮らすということで、その基礎部分のおかげで飛躍的な成長ができたように思います。

さて、①についてですが、初めての海外長期滞在を誰も知り合いのいないところで行えたことが成長の大きな要因になったと思います。寮に住むのではなく、現地の大家さんと契約し家を借り共同生活をする中で、1人で暮らすことの何たるかを学べたと思います。バックグラウンドの全く違う同世代の人たちと住むことは意思疎通を行う困難さに直面しつつも、共に暮らすことでしか得られない深い友情を感じることができました。時には家の使用について大家さんと口論になることがありました。真冬の氷点下以下の気温の時に暖房が働かず、それを報告したところ「それはしっかりと動いている」の一点張りでした。このような状況で1人で問題を解決するためにNoと言わなければいけない時にNoと力強く言えるような力を養えたと思います。

続いて②ですが、交換留學生の多く集まる家で暮らすことによってアメリカ人に囲まれる学校生活のほかに世界各国から集まる留學生に囲まれながら暮らすという体験もできました。そこにはスペースに関する独自の価値観や時間の概念の違いなどがありふれた環境でした。そこではこうであるべきという、自分の中にある既成概念は通用せず、自分の考えを口にだし、物事をよい方向へ向かわせる力が問われていたように思います。

最後に③についてですが、これは通常日本で送る大学生活と違って自分がこの場で得るものは何で将来どう生かすのかというのを強く考える機会が多くあったからだだと思います。大学二年生で留学をしたことで残りの大学生活でどこに向かっていくのかを明確にすることができたと思います。

自分のComfort zoneを出て規制の枠組みにとらわれない生活は不安や困難が目立つかと思いますが、そこに行かなければわからない価値や、世界の広さをぜひとも多くの大学生にも体験してもらいたと思います。

お疲れ様でした

国際教育センター海外留学支援室 2015.2作成版